

# 九頭竜川地域 農と水の振興ビジョン [H26~H30]

- 夏でも冷たい豊富な水で高食味米と園芸生産を拡大
- 水管理の省力化と経営規模拡大を進め、米の生産コストを2割削減

- ・すべてのコシヒカリ4500haで夜間かんがいを実施し、高食味米を生産
- ・新規園芸品目の導入（夏ホウレンソウ、夏まきニンジン、アスパラガス、しょうが）
- ・三里浜砂丘地の遊休農地100haを全面解消
- ・園芸で即戦力となる新規就農者を120名に拡大
- ・集落営農組織等へ農地の90%を集積し、水管理を1haあたり30時間削減

基本方針		具体的施策	目標 (H25 ⇒ H30)		
水田地域	○高品質・高食味米の生産と「こだわり米」の生産拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間かんがい技術をすべてのコシヒカリで実施し、高食味米を生産</li> <li>・クリムソクローバーやレンゲを活用した、特徴ある「こだわり米」を生産拡大</li> <li>・はさばによる自然乾燥で食味を向上</li> </ul>	夜間かんがい面積	300ha	4,500ha
	○「集落園芸」の導入拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の冷たい水を活用した夏ホウレンソウ、夏まきニンジンの新規導入とネギ、キャベツ、ブロッコリーの生産拡大</li> <li>・クレソンの水耕栽培の試験生産・販売</li> </ul>	「こだわり米」面積	68ha	150ha
	○集落営農組織の経営体質強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大区画圃場を活かして40ha規模の集落営農法人を育成</li> <li>・100ha規模の広域で土地利用を行うメガファームを育成</li> </ul>	はさば設置	—	6箇所
畑作地域	○ラッキョウの生産拡大に加え、高糖度ミディトマト、メロン、ブドウを生産拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省力機械の導入によるラッキョウの生産拡大</li> <li>・耐候性ハウスを100棟整備し、高糖度ミディトマト、メロン、ブドウを生産拡大</li> </ul>	ラッキョウ面積	65ha	100ha
	○豊富な水量による新たな品目導入と冬期園芸の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アスパラガスの長期採り、しょうがの新規導入</li> <li>・トマト、メロンの後作としてコカブや軟弱野菜による冬期園芸を拡大</li> </ul>	ミディトマト・メロン面積	10ha	17ha
	○企業参入による加工業務用野菜の生産拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産から加工・流通まで行う企業を誘致するなど、加工業務用としてニーズの高いキャベツ、ニンジン、ネギの契約栽培を拡大</li> </ul>	ブドウ面積	0.6ha	2ha
	○県内外からの新規就農者を育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふくい園芸カレッジや農業支援センター（丘陵地と砂丘地）で遊休農地をあっせんし、新規に園芸生産を行う人材を育成</li> </ul>	アスパラガス・しょうが面積	—	1ha
施設整備	○水利施設を有効活用した交流拠点を整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農林水産物直売所や農家レストランを整備し、調圧水槽を眺望ポイントやライトアップしたランドマークとして活用することで地域内外からの集客を促進</li> <li>・管理用道路をサイクリングロードとしての活用やせせらぎ水路、ピオトープを整備し、新たな人の流れを創出</li> </ul>	カット野菜の生産拡大	34ha	100ha
	○パイプラインの持つ水のチカラの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パイプラインの自然エネルギーを活用した小水力発電や防火用水の整備</li> </ul>	新規園芸就農者数	17名	120名
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模直売所</li> <li>・ふるさと眺望<sup>※</sup>イオ整備</li> <li>・サイクリングロード</li> <li>・せせらぎ水路</li> <li>・ピオトープ</li> <li>・小水力発電</li> </ul>	7箇所	8箇所
			1箇所	3箇所	
			—	33km	
			9箇所	16箇所	
			8箇所	10箇所	
			—	4箇所	